

令和5年度第3回益田地域保健医療対策会議 要約

日 時 令和6年3月12日（火）14時～16時

場 所 益田合同庁舎 大会議室

参加者 現地 30人+WEB 7人=37人

議 事 報告事項

1. 島根県保健医療計画の進捗状況
2. 益田圏域において次期力を入れること
3. 地域医療構想について
4. 公立病院経営強化プランについて
5. 医療連携推進コーディネーター活動報告
意見交換「今年度の取組、次年度の展開について」他

主な論点

1. 県計画の進捗状況と圏域のポイント（所長）

- ・慢性期医療や施設介護において、他圏域流出が高い。地域医療全体を視野に入れた適切な役割分担のもとで、必要に量を面として提供していくことが必要。
- ・そのために、高度急性期・急性期機能へのアクセス確保とともに、転院搬送の促進、及び、回復期・慢性期機能の確保が重要。
- ・高度医療を担う島根大学医学部附属病院や県立中央病院の連携を図りながら、住み慣れた地域（外来）での療養が出来るよう病診連携を図る。
- ・循環器疾患（脳血管疾患・心疾患）については、壮年期から特定健診・保健指導等により、高血圧や糖尿病等の予防や早期発見・早期治療、適正管理の体制整備を図る。また、心不全の急性期入院の医療負担が軽減できるような、後方支援・施設内療養・在宅療養支援を検討していく。
- ・地域医療については、総合医のネットワーク形成と、専門医との連携による総合医の診断・技術の向上を図ること、移動診療車による巡回診療の実施・へき地診療所への医師派遣に努めること。また、住民と医療従事者の顔の見える関係づくり、住民による地域医療を支える仕組みづくりの推進を図る 等。

2. 益田圏域において次期力を入れること

（医事・難病支援課）5疾病6事業中心に

- ・今後も、85歳以上の高齢者が増加することを踏まえ、4つの柱を掲げて進める。
①圏域内医療・介護連携の充実、②在宅医療のあり方検討、③慢性疾患の症状悪化・発症の予兆についての教育・連携、④介護予防の視点で生活支援の充実
- ・在宅医療のあり方検討や、施設内療養の仕組みを検討する際は、各市町の医療・介護連携

推進事業と連動し、郡市医師会・各病院・訪問看護ステーション等と検討を重ねる。

- ・循環器対策は、疾患管理と ACP を合わせて進めていく。各市町の保健活動と医療・介護が連携した取組になるよう、共通理解が図れるような多職種研修会を開催等実施する。

(健康増進課) 健康長寿しまね中心に

- ・平均寿命は、前回よりも男女とも延伸したが、目標値に達していない。65 歳以上の平均自立期間は男女とも延伸し目標は達成。引き続き健康課題の改善につながる取組を推進する。
- ・次期は、構成団体・関係団体など地域の多様な資源が協力し合い、楽しく健康づくり活動を推進するための協議の場として、「健康づくり魅力化プラットフォーム」を創設。今までの部会を再編し、参加者の主体的な活動企画・検討を重ね、圏域展開する。

3. 地域医療構想について

- ・3月1日によしか病院が開設。圏域全体の病床数・病床機能を確認。
- ・病床数は全体で628床。必要病床数より15床多い状況。今後も、高度急性期・急性期を担う益田赤十字病院の医療機能を維持できるよう、回復期・慢性期病床の維持・確保を検討していくことを確認。

4. 公立病院経営強化プランについて

(津和野町) 津和野共存病院

- ・津和野町医療基本構想に必要な事項を追記し、強化プランを作成。
- ・人口減の中、入院患者も減少。49床の維持が難しいかもしれないが、1000名の独居高齢者がいる中で、津和野町で住み続けられるために医療施設を維持したい。切れ目のない医療介護提供ができるよう、地域包括ケア病床・巡回診療・訪問看護・訪問リハ・行政・地域包括支援センターが一体的な支援を提供できるよう努める。
- ・町の中核医療機関、益田赤十字病院の後方医療機関、地域支援拠点病院として無医地区診療等の役割を果たす。救急告知病院は行っていないが、総合医がどなたでも診療し、初期救急の対応を行う。人材確保については、橘井堂の協力のもと、若手医師が集まる教育の充実や、医学生実習を受け入れていく。
- ・医療収益が改善している。引き続き入院稼働80%を維持し、効果的な病床運用を進める。町内の介護施設との連動、お互いの機能を活かしたい。

(吉賀町) よしか病院

- ・一般病床50床、よしか介護医療院53床のスタート。県の方針に従い、圏域内の医療連携強化につながるよう、後方支援病院として役割を果たしたい。今後、地域包括ケア病床を設置し、患者の社会復帰促進を図りたい。
- ・高齢者医療を守るために、広い知見を持つ総合内科医師を中心に医療を展開。高齢者が安心して受診できるような専門科も隔週等になるが確保(精神科等)。

- ・救急は、日勤のみの対応。ドクターヘリを活用することは継続。住民の夜間の相談に対応できるよう、無料フリーダイヤルで活用できる「よしか健康ダイヤル24」を開設。
- ・老人保健施設六日市苑を分類変更し、介護医療院を設置。鹿足郡の中で住民の選択肢が増やせるよう、津和野町にある老人保健施設せせらぎと連携した取組を進める。
- ・強化プランとして4点。①病院機能の再編に従って機能分化・連携強化、②地域包括ケアシステムの構築・推進、③医療従事者確保、④住民団体と連携した「地域医療を守る」ための取組推進を進める。

5. 医療連携推進コーディネーター活動報告

- ・実施要綱に基づき事業を展開。
- ・「医師との対話を通じた課題把握」は、益田市美都・匹見地区の将来に向けた医療のあり方検討を実施。
- ・「医師と他職種との連携強化」は、再入院・再発防止のために必要な入退院連携情報について多職種研修会を2回開催。

意見交換

1. よしか病院について

- ・六日市病院と違った視点で、鹿足郡の中で必要な医療を協力して展開・補完できるように運用したい。
- ・医療の継続が第一。さらなる検討が必要だと考えている。

2. 能登地震派遣について

- ・益田日赤：DMAT、救護班の派遣、現在災害支援コーディネーターを派遣中。
- ・松ヶ丘病院：1月22日～26日に3名派遣。珠洲市の避難所巡回、病院代診等行った。水が出なくて大変だったが、やりきったと職員が報告。

3. 情報連携について

- ・後期高齢者歯科検診のデジタル化をまめネット利用で実施。まめネット未加入だと、受診後の介入が1年かかり、タイムリーにならない。その解消を狙っている。
- ・施設の25%がデジタル化。オーラルフレイルのチェックリストから、低栄養につながるための早期介入が大切。DX推進のためにも、まめネット利用促進を進めてほしい。

4. 益田市の脳卒中・心疾患対策について

- ・脳ドックから把握したリスト保有者を対象に教室開催。
- ・スマートヘルスケア推進事業に、600名参加。血圧・ナトリウム比を測定し、保健指導を実施。新しく2社が事業所として参加。今年度、参加者の集いを初めて実施し55名参加。

- ・健康づくり活動報告会でも、この事業の取組を報告し、活かしたい。共通教材で勉強できる取組も検討。

5. 質問

Q1 脳卒中治療について、4.5時間以内にt-PA治療と言われたが、発症してから治療に当たるまでの時間か？

A1 そうです。

Q2 能登半島地震を受けて、圏域の中で何か検討されているのか？

Q2 保健所が事務局になっている「益田圏域保健医療福祉調整会議」の中で、次年度検討したい。また、圏域で派遣体験した人に体験を報告してもらったり、初動について検討する。

まとめ

- ・計画の具現化を意識した会議だった。現場の声を活かして取り組んでいこう。

(所長)

- ・実行していくことが大切。皆さんを巻き込みながら、一緒に活動したい。協力をよろしく。